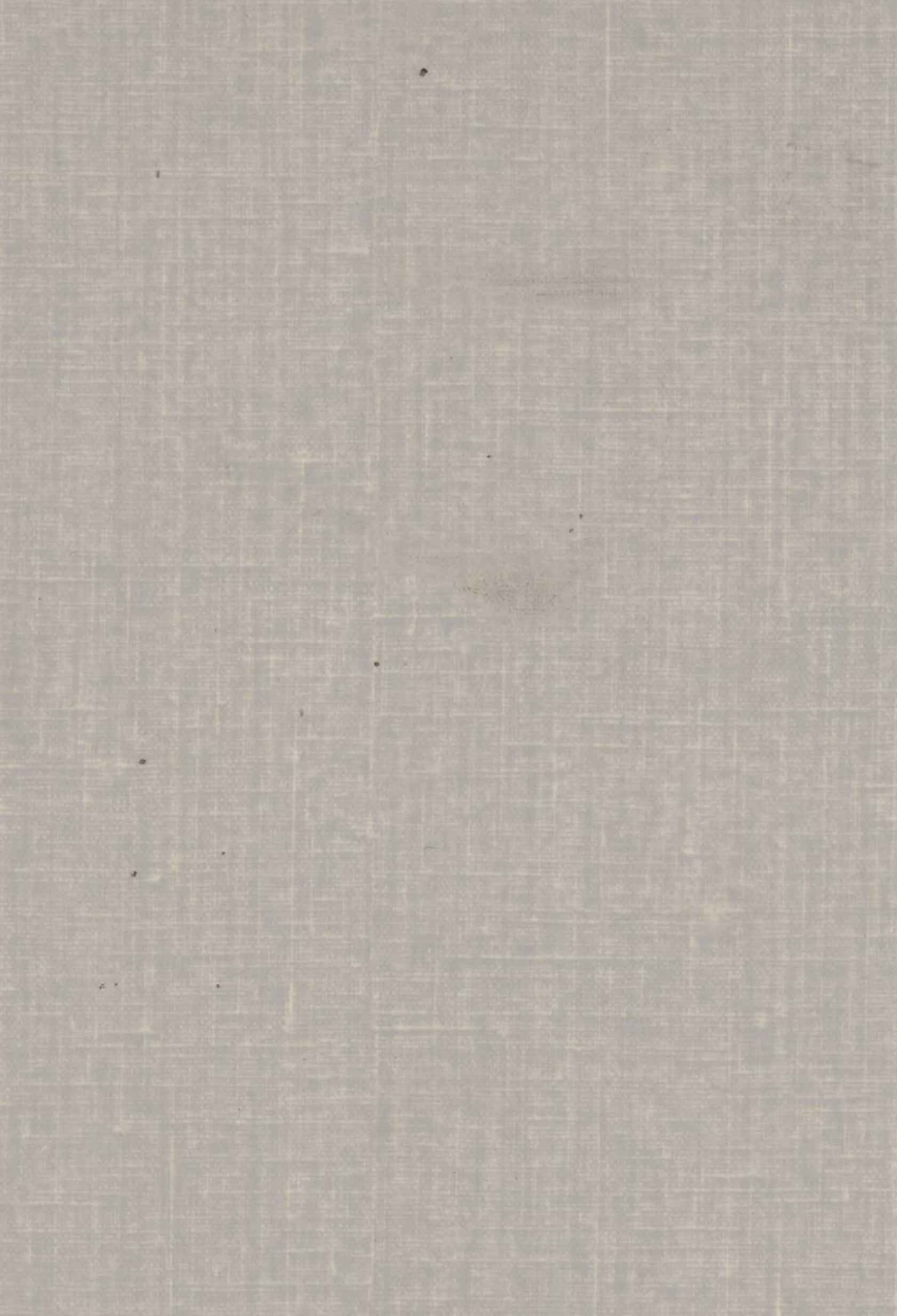




A.I.ブルームフィールド

金本位制と国際金融

——1880-1914年

小野一一郎 共訳
小林 龍馬



日本評論社

小野 一一郎
おの かずいちろう

1925年 大阪府出生

京都大学経済学部 1949年卒業

住友銀行，大阪市大経済研究所をへて，現在 京都大学教授，専攻
世界経済論，国際金融論。

主 著：—（共著）『近代日本貿易史』有斐閣；（同）『後進国開発理
論の研究』有斐閣；（同）『貿易・為替の自由化』三一書房。

小林 龍馬
こばやし りゆうま

1930年 京都府出生

同志社大学経済学部 1955年卒業

専修大学商学部教授をへて，現在 立命館大学経営学部教授，専攻
金融論，国際金融論。

主 著：—（共著）『現代資本主義と国際通貨』法律文化社，（同）
『資本の自由化』有信堂。

A. I. ブルームフィールド 金本位制と国際金融
共訳／小野一一郎・小林龍馬

1975年 6月30日 第1版第1刷発行

日本評論社
（発行人 小林昭一）

〒160 東京都新宿区須賀町14 電話／東京341—6161（代） 振替／東京16番

印刷／港北出版印刷株式会社 製本／高陽堂

© 小野一一郎・小林龍馬 1975年

検印省略

Printed in Japan

訳者まえがき

一、本訳書の原本は、Arthur I. Bloomfield, *Monetary Policy Under the International Gold Standard, 1880-1914*, New York, Federal Reserve Bank of New York, 1959; ditto, *Short-Term Capital Movements Under the Pre-1914 Gold Standard*, Princeton Studies in International Finance, No. 11, Princeton, 1963; 34-45 ditto, *Patterns of Fluctuation in International Investment Before 1914*, Princeton Studies in International Finance, No. 21, Princeton, 1968, であって、とりあつかわれている時期が一八八〇年から一九一四年である点で共通している。換言すると、この時期の貨幣政策、短期資本移動および長期投資変動の問題を対象としている。原表題は前述した原名をそれぞれ付しているが、これら独立した小冊子を本訳書では一冊にまとめたので、原著者の許しをえて、あえて『金本位制と国際金融』の訳書名をとった。

一、引用文の前後にある“……”は「……」により、また引用語句をかこんだ“……”は『……』をもちい、文中の(……)はそのまま(……)とした。

一、原文のイタリックは傍点をつけて示した。外来語(英語にとつての)を示す意味でイタリックになっているものはそのまま訳出し、傍点を付していない。

一、原著では注はページごとに脚注としてついているが、訳書では章末または節末ごとにまとめた。

一、引用ならびに参照文献名は訳出せず、そのままとした。なお邦訳のあるものはすべて文献名を付しておいた。

引用文は邦訳のあるものについては、なるべくそれにしたがっているが、かならずしもそれによっていない場合も

ある。なお論文をかこむ……はすべて除いた。単行書、雑誌名はイタリックで示した。

一、索引は原著にはないが、人名索引のみを作成して巻末に付し、読者の便宜に供した。

一、原著者ブルームフィールド教授は、邦訳を快諾されたばかりか、訳者の質問に懇切な回答をあたえられ、さらに日本語版への序文を寄せられた。また翻訳権その他の手続きについては、日本評論社の手をつうじて、ニューヨーク連邦準備銀行およびプリンストン大学出版部から原著の翻訳および出版を許可された。関係当局のこれらの深い親情にたいして心から感謝したい。

一、本書の翻訳は、最初、京都大学大学院での一九七一年度ゼミナールでテキストにもちいたものを、小林が素訳をこころみ、それをもとに、当時大学院生であった、田口信夫（現、長崎大学）、藤原貞雄（現、山口大学）、西口清勝（現、長崎大学）、および鍛冶邦雄（現、関西大学）の四君とともに読合わせをしてできたものである。とくに統計学上の知識、用語内容については、名古屋学院大学的好田教授から多くの助言をあたえられた。また甲南大学の本山助教授は訳文を原文と対照して多大の教示をあたえられた。これら諸氏の助力がなければ、本訳書を完成することは困難であったとおもう。記して深甚の謝意を表したい。しかし訳文の責めはすべてわれわれにある。

一、なお、本書のような専門的な翻訳書の出版についてお世話になった日本評論社の牧野正孝氏、炭谷巴之助氏、畑中繁雄氏にたいしての深い感謝と、また訳者両名の公私にわたる雑事のため脱稿が予想外におくられて原著者ならびに出版関係者にご迷惑をおかけしたことへのおわびの言葉を記しておきたい。

一九七五年五月

訳者

小野 一郎
小林 龍馬

日本語版への序文

本研究は、一九一四年以前の国際金本位制の機能に直接・間接に関連する三つの独立論文から成っている。それらは、それぞれ一九五九年、一九六三年および一九六八年に発表されたものである。前の二つは、わたしが著述を企てたはるかに大きな研究の一部分として、もともと計画されたものであったが、その企ては別個の関心と関与のために完成されなかった。第三のものは、一九一四年以前の時期をとりあつかっているが、直接に金本位制そのものをとりあつかうものではなく、前二者とは独立してできあがったものである。

前二者の基礎となった調査は大部分、一九五七年から五八年にかけて、ヨーロッパで収集した資料にもとづいている。その間、わたしは一二のヨーロッパ諸国の中央銀行を訪問し、種々のヨーロッパの商業銀行家、政府職員および経済学者たちと会談し、そして関連統計資料のすべて、およびわたしが発見しえたその他の情報を探索した。これらの独立論文の目的は、性格上、純粹に歴史的なものである。それらは一九一四年以前の金本位制の機能について補足的な説明をあたえ、そしてこの分野で多年にわたって展開されてきたいくつかの誤解や定式化された見解を修正することを企図したものである。それらは、その後にあらわれた国際通貨改革についての論争（そしてこれは、今日においても依然つづいている）に貢献することを意図したものでなく、また、とくに金本位制の復活の擁護を意図したものでもない。

第三のものは、一九六七年に執筆されたものであって、これまでまとまったものとして体系的に収集・分析された

ことのない、一九一四年以前の対外投資に関する資料を集めている。これは一九一四年以前の金本位制の作用を直接とりあつかってはいないけれども、明らかにそれと関連をもっている。

これらの研究は、その意図した諸目的をみたすものとわたしは希望しているが、なお、わたしがもとと解答をあたえることを望んでいた、より大きな、そして知的にはいっそう挑戦的な問題を、本質的には未解決のままにしている。すなわち、一九一四年以前の金本位制がなぜ長期にわたって作用したか、また作用しえたかという問題である。

このことは、とくに一九一四年以降、現在にいたる国際通貨上の経験における攪乱という観点からすれば、魅力的かつきわめて困難な問題をのこしていることを意味している。おそらく本書の読者のうちには、これに刺戟をうけてこの問題にたいして、よりいっそうの光を投ずべく、この分野におけるさらに進んだ研究につき進まれる方もあるだろう。一九一四年以前の金本位制に関しての通説的定式化が示唆しているよりも、その解答はもっと複雑なものであることはたしかであろう。

わたしは、これら三論文の日本語訳および本訳書刊行についてご高配を賜わったことに対し京都大学、小野一郎教授および専修大学、小林龍馬教授に深く謝意を表したい。

一九七三年四月一日

ペンシルバニア大学において

アーサー・I・ブルームフィールド

目次

訳者まえがき

日本語版への序文

第一部 国際金本位制（一八八〇—一九二四）下の貨幣政策

序文		三
序言		五
第一章 序論		七
第二章 貨幣政策の制度的背景		二二
第三章 貨幣政策の目的と基準		二五
第四章 割引政策		三〇
第一節 中央銀行信用の利用可能性		三三
第二節 割引率、中央銀行準備率および循環変動		三三
第三節 割引率政策の作用		三七

第四節	割引率と公開市場金利		三
-----	------------	-------	---

第五章	「ゲームのルール」		五
-----	-----------	-------	---

第六章	貨幣政策のその他の手段と技術		六
-----	----------------	-------	---

第一節	金現送点の操作		六
-----	---------	-------	---

第二節	外国為替政策		六
-----	--------	-------	---

第三節	中央銀行間の協力		六
-----	----------	-------	---

第四節	兌換性を維持するためのその他の措置		六
-----	-------------------	-------	---

第七章	結 論		七
-----	-----	-------	---

第二部 一九一四年以前の金本位制下の短期資本移動

第一章	序 論		七
-----	-----	-------	---

第二章	公的短期資本移動		八
-----	----------	-------	---

第一節	公的外国為替保有高の統計		八
-----	--------------	-------	---

第二節	外国為替および金の公的保有高		九
-----	----------------	-------	---

第三節	公的外国為替操作		九
-----	----------	-------	---

第四節	国際通貨準備の適正度		一〇
-----	------------	-------	----

第三章	民間短期資本移動		一七
-----	----------	-------	----

第一節 種類と動機	二八
-----------	----

第二節 一九一四年以前の民間短期資本移動の統計についての覚書	二三
--------------------------------	----

第三節 スカンジナビア諸国	二三
---------------	----

第四節 カナダ	二四
---------	----

第五節 フランス	二八
----------	----

第四章 国際短期債権・債務国ポジション	二六
---------------------	----

第一節 イギリス	二六
----------	----

第二節 その他の諸国	二六
------------	----

第五章 短期資本の異常な移動	二七
----------------	----

第六章 むすび	二八
---------	----

付録Ⅰ 国別公的外国為替保有高	二八
-----------------	----

付録Ⅱ 一九一四年以前の米ドル基準での金通貨の為替平価	二九
-----------------------------	----

付録Ⅲ 公的外国為替保有高に関する系列の出所と構成	二九
---------------------------	----

第三部 一九一四年以前における国際投資の変動の型態

第一章 一九一四年以前の資本移動	一七
------------------	----

第一節 地理的型態、構成および目的	一六
-------------------	----

第二節	統計系列。作成方法と構成要素	100
第三節	図の示すもの	101
第四節	對外投資の相對的「重要性」	104
第二章	國際投資の循環變動と長期波動	113
第一節	循環變動	113
第二節	長期波動	117
1	アメリカとイギリス	119
2	カナダ	121
3	オーストラリアとニュージーランド	125
4	スウェーデン、ノルウェーおよびイタリア	127
5	フランス、ドイツおよびアルゼンチン	129
第三節	長期波動についての結論	131
第三章	國際投資の決定因	136
第一節	資本移動と国内投資	139
第二節	國際投資と相對的收益率	141
第四章	結論的所見	147
付録 I	純資本移動（各國通貨一〇〇萬單位）	（折込）

付録Ⅱ 選ばれた期間における純資本移動（単位二〇〇万ドル）……………（折込）

付録Ⅲ 純資本輸入または純資本輸出の

国内総資本形成にたいする比率……………（折込）

付録Ⅳ 使用された統計（資本移動をのぞく）の出所……………二四九

訳者あとがき

（付）原著者の経歴および著作目録

人名索引

〔統計表〕

第一部

第1表 中央銀行の対外資産と国内資産の変化 ㉞

第二部

第1表 報告された外国為替資産の公的保有総額（一九一三年末）

六

第2表 符号相関——スカンジナビア諸国の商業銀行の純対外資産

と中央銀行準備の変化 一二

第3表 ロシアの短期対外資産と負債 一七

第三部

第1表 相関係数——純資本移動と国内経済活動 三六

〔図表〕

第一部

第1—4図 中央銀行の割引率と準備率 一五、一六、一七

第5図 中央銀行の割引率 一八

第二部

第1図 公的外国為替保有高 一九

第2—4図 公的準備の主要構成 二〇、二一、二二

第5—6図 輸入にたいする総公的準備（金および外国為替）の比

率 二〇、二一

第7—8図 商業銀行の短期対外資産と中央銀行準備 二二、二三

第9図 商業銀行の純（または総）対外資産と中央銀行準備の変化

二四

第10図 カナダ——特許銀行の「外部準備」 二五

第11図 フランス——商業銀行の外国手形保有高と金の純輸入

二六

第三部

第1図 純資本輸出と純資本輸入 二七

第2図 純資本輸入 二八

第3図 カナダ 二九

第4図 オーストラリア 三〇

第一部 國際金本位制（二八八〇—一九二四年） 下の貨幣政策

序 文

本研究は貨幣政策、貨幣技術および貨幣制度に関してニューヨーク連邦準備銀行が公刊している一連の叢書のうちの一つである。これまでの刊行物——それらは主として現在の実務や操作をとりあつていたが——とくらべると、本小冊子は現代貨幣・銀行理論に照らして、一九一四年以前の金本位制度の枠内における各中央銀行の業務と政策について比較的無視されてきた記録をとりしらるべく過去にたちいったものである。著者は、現在ペンシルバニア大学の経済学および金融論の教授であるが、氏は本研究の大部分を、ロックフェラー財団からの助成金をえて、一九四一年から一九五八年まで在職した本行からあたえられた賜暇の期間中に完成したものである。

本研究では、著者は一九一四年以前の金本位制の作用の背景にむかつて、各中央銀行が一八八〇年から一九一四年の期間に機能した道具^{セツアイング}だて、つまり中央銀行の目標、基準および操作と政策の性質を分析している。かれはとりわけ、中央銀行がその期間中、ふつう考えられているよりもはるかに積極的で多様な役割を演じたことを明らかにしている。金本位国における支配的な貨幣政策の目標は確定された平価での金兌換を維持することであったが、このことは、国内の企業活動と信頼への中央銀行行動の効果にたいして無関心であることを意味するものではなかった。さらに、ブルームフィールド教授はまた、これら中央銀行のほとんどが伝統的な割引政策のほかに、多様な貨幣技術に依拠しており、また今日のいっそう精緻な技術への布石としてやくだつべき多くの実務にすでに従事していたことをも示している。かれはまた、一九一四年以前の中央銀行が、いわゆる「金本位制のゲームのルール」を一般に守っていたとい

う伝統的な信条に疑問を投げかけている。これらの、またその他の関連した新事実は、一九一四年以前の金本位制が

一般に考えられているよりも、はるかに複雑な機構であったことを示している。

本研究の最初の版は、すでにベルギー国民銀行の『広報・記録月報』(*Bulletin d'Information et de Documentation*) 一九五九年一月号に、フランス語で刊行されている。ニューヨーク連邦準備銀行としては、この英語での改訂版が、貨幣、銀行および国際金融の研究者諸氏に利用していただければ幸である。

一九五九年一〇月 ニューヨーク市

議長
アルフレッド・ヘイズ